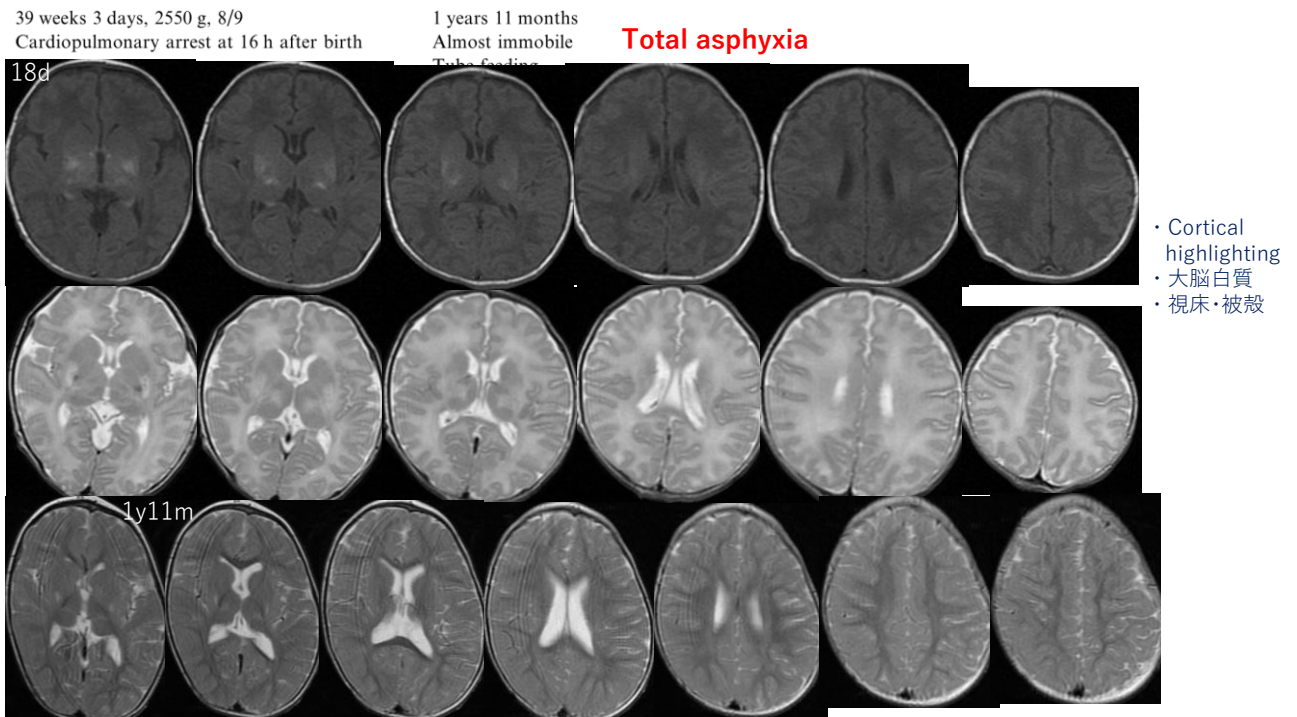


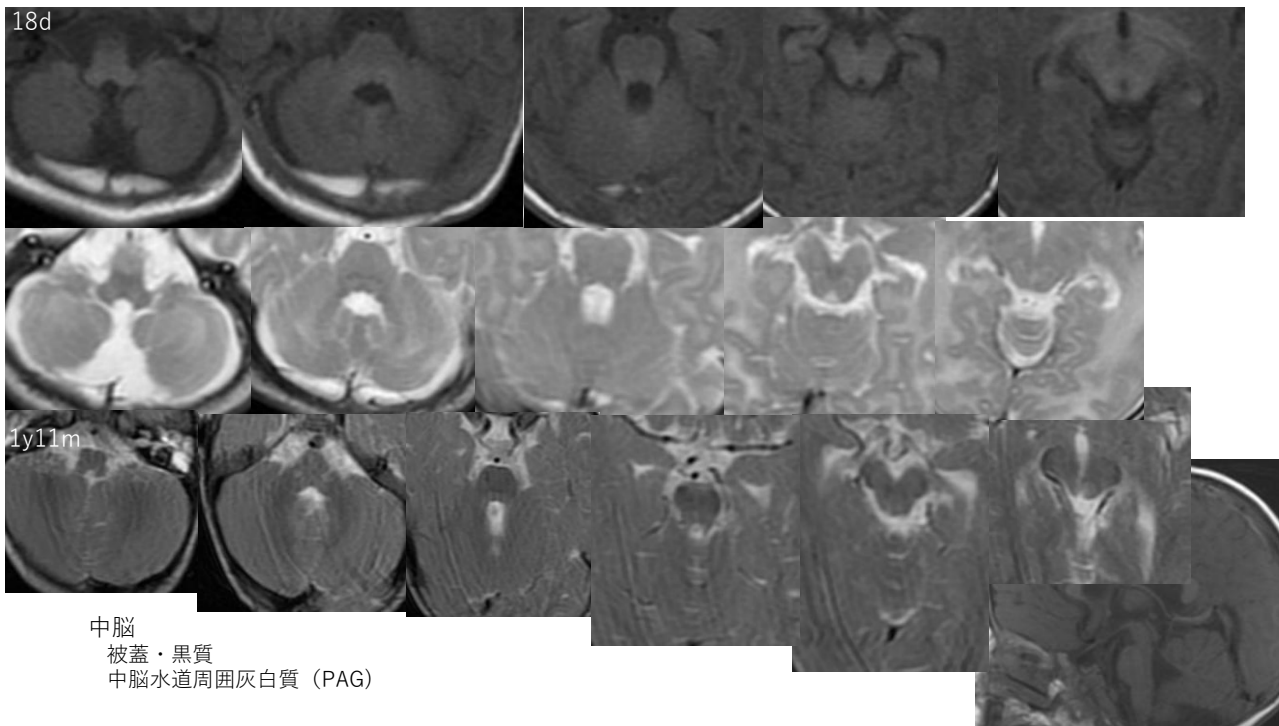
病的共收縮

- 股屈曲過活動
- 大腦白質性共收縮制御障害
- 基底核性共收縮制御障害
- 中脳性運動発現障害 共収縮
- 分離運動制限
- 持続的筋過活動状態

1



2



3



- ・股軽屈曲・内転・膝軽屈曲で固まる
*右股膝少し屈伸あり
- ・上肢は前下出しで固まる
*肘屈曲・肩外転は少し動く
- ・頸体幹伸展で固まり、そこから反りあり
- ・開口で表情筋無動

4



5

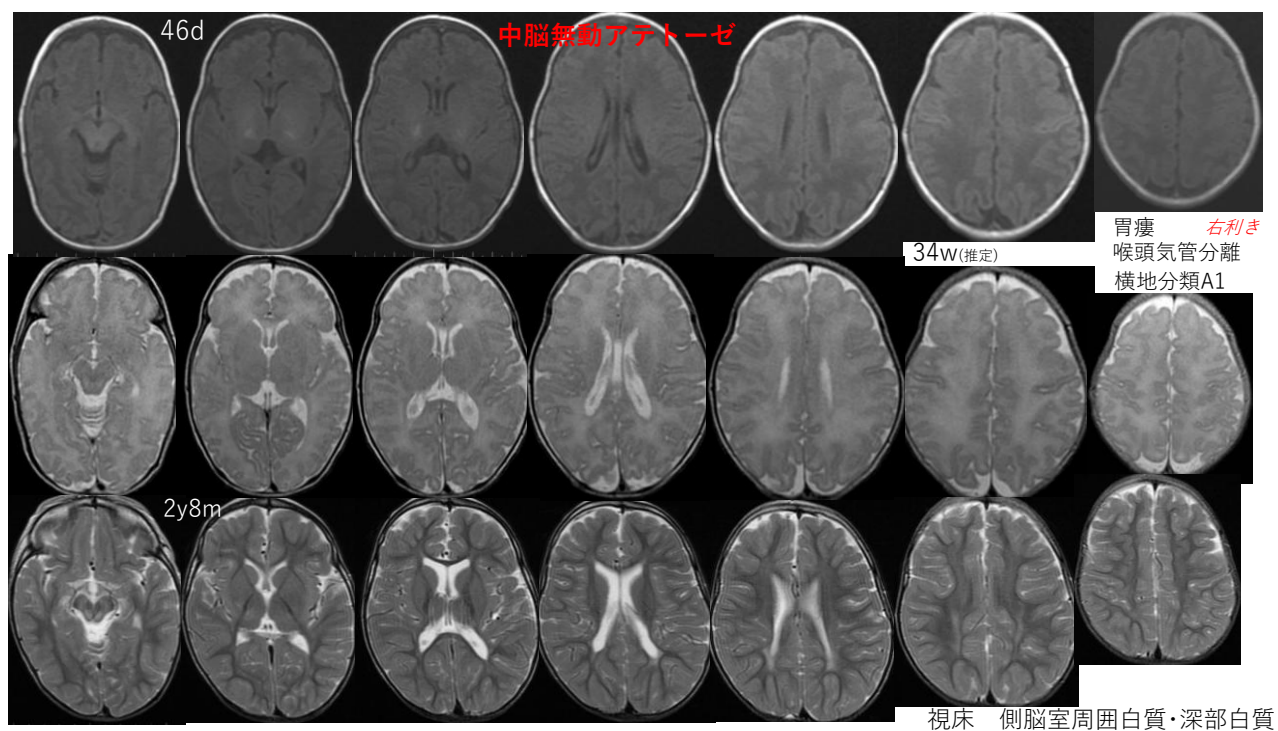


6

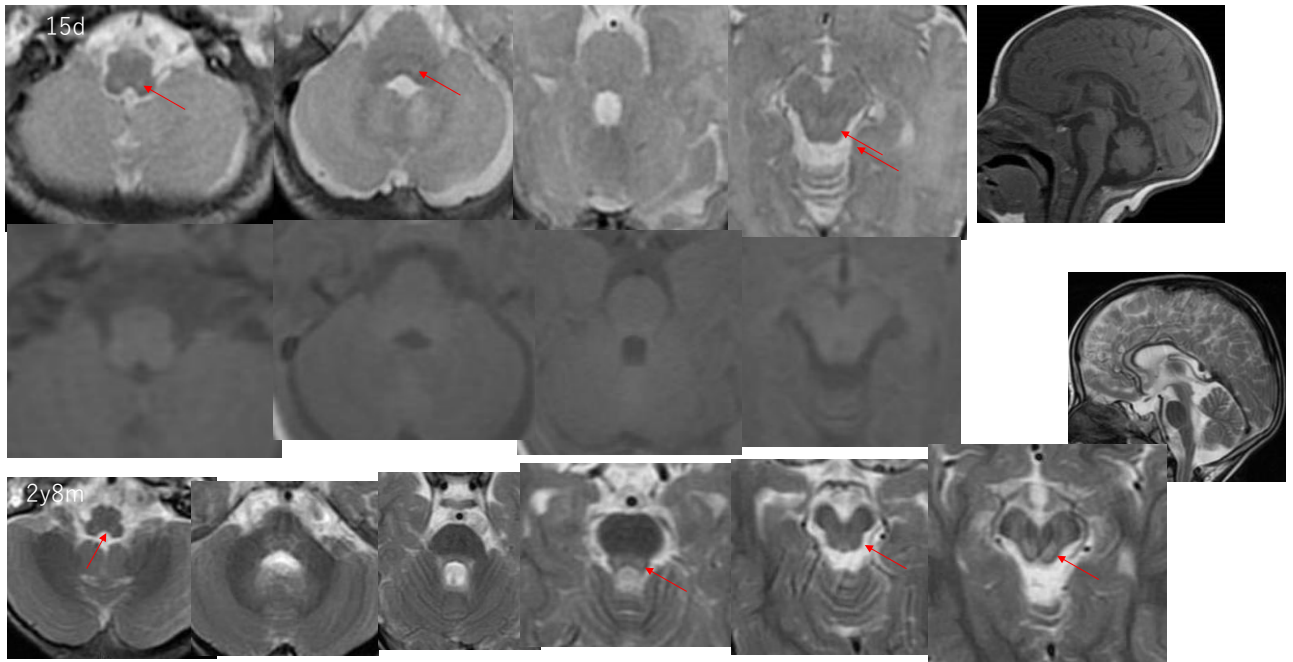
Total asphyxiaの運動障害

- 上下肢は固定位をとる *頸体幹は動く
- 固定肢位は、股伸展荷重制限・伸展常時筋収縮状態に股屈曲過活動・屈曲常時筋収縮が重なったものとして理解できる
- 固定位からの少し動きうる。それは共同運動と肩回旋運動にあたる
 - *共同運動は強い共収縮に由来し、分離運動制限にはあたらない
- 顔面筋も無動となる

7



8



9



10



- ・股屈曲内転と股外転
- ・下肢速い屈伸運動 分離運動は寡少だがあり
- ・上肢は前に出にくい 左>右
- ・脱力感あり

11

周生期低酸素性視床被殻大脳白質病変に中脳病変が合併した運動障害 - 中脳無動型アテトーゼ -

- ・ 股屈曲位の優勢あり *股内転または股外転優勢もあり
- ・ 下肢伸展の動きは速く、最大伸展位も大きい
*過活動の股屈筋が脱力化している印象あり *共収縮制御障害と対抗している印象あり
- ・ 大振幅の交代性の下肢運動あり このとき非対称となる
- ・ 関節可動域の極位で固まることあり このとき脱力感がある

12

中脳性運動発現障害

- Mesencephalic locomotor lesionに障害があれば、CPGの発動不全が起こる
- 当該筋はtonic contractionの共収縮下の寡動となる
 - ・ 下肢伸展位で寡動となる *or*
 - ・ 屈曲位または伸展位で固まる脱力感あり 共収縮のtonic contractionは強くない
- * 中脳病変をとる場合は、たいてい基底核と大脳白質にも病変を持つので、上記症候はこれらの合算かもしれない
- * 中脳病変をとるのは知的障害が強い 大脳のMR病変が軽くても
中脳ネットワークは知的機能にも必須なものである

13

分離運動制限の成り立ち

- 大脳運動系の出力不全により、脊髓運動ネットワークの単純運動（共同運動）のみが起こる
- 相反抑制の弱いtonic contractionとなる
- 白質病変の広がりがあれば、大脳白質性共収縮制御障害も加重する
 - * これらにより拘縮に至る

14